



競輪の補助事業

この事業は、競輪の補助により実施しています。
<https://hojo.keirin-autorace.or.jp/>

< オリンピック・ムーブメント事業 >

JOCオリンピック教室

実施報告書

東京都 文京区立第十中学校



公益財団法人 日本オリンピック委員会

「オリンピック教室」の実施にあたって

平成21年4月の学習指導要領から、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが示されました。中学校3年生では、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会等は、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」現状を通して、オリンピックの意義を学習することになっています。そこで、JOCでは、中学校3年生の体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から授業形式で行う「オリンピック教室」を実施してきました。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表としてオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められますが、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることが期待されます。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身が学ぶこともねらいとしております。

平成29年3月公示の新学習指導要領では、新しい時代に求められる資質や能力を子供たちに育むために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫や改善が求められています。「オリンピック教室」でのふれあいの中での学びが、教科の枠を越え、これからの社会や人生に活かせる資質や能力を育む一助になることを期待しております。また、この授業を通して、生徒の皆さんが、運動やスポーツが好きになり、生涯にわたり豊かなスポーツライフの実現につながることも願っています。

令和6年4月

公益財団法人 日本オリンピック委員会

- 目的： オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、
 オリンピアン自身の様々な経験を通して
 「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、
 この価値はオリンピアンだけのものではなく、多くの人々が共有し、
 日常生活にも活かすことの出来るものであることを授業を通して学習してもらう。
- 事業名： JOCオリンピック教室
- 主催： 公益財団法人日本オリンピック委員会(JOC)
- 後援： スポーツ庁
- 協力： 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対象： 中学校2年生
- 講師： オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）※派遣オリンピアンはJOCが選定
- 期間： 2024年4月～2025年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数： 80校程度
- 実施方法： クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1コマ目 運動の時間 / 50分

身体を動かしながら生徒との距離を縮め、
 チームワーク、フェアプレー、身体を動かす
 ことの楽しさ等を感じてもらいます。



2コマ目 座学の時間 / 50分

競技者人生を振り返り、自身が感じた
 オリンピックの価値を生徒に伝え、
 オリンピックをより身近に感じてもらいます。



1コマ目

運動の時間 / 50分

オリンピックの専門競技の技術指導(=スポーツ教室)ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶(5分)

準備体操(10分)

主運動(30分)

まとめ(5分)



自己紹介
学習内容の確認



準備体操



主運動
(作戦タイム等を設け、
生徒が考える機会を作る)



運動の時間のまとめ

2コマ目

座学の時間 / 50分

国際オリンピック委員会(IOC)が推進する「オリンピックの価値」等を、オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際にオリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後活かせるような学習内容

挨拶・自己紹介(10分)

オリンピックの価値を伝える(10分)

グループワーク(20分)

まとめ(10分)



学習内容の確認



写真・映像等を使用した自己紹介



オリンピック自身の経験に基づく「オリンピックの価値」等を伝える



個人またはグループワークで話し合った内容を発表



全体のまとめ
記念撮影(クラス写真)

※時間は目安です。
※内容はオリンピックによって変動する場合があります。

●時間割について

- ・1クラスにつき、運動の時間+座学の時間の順に、2時間連続で実施します。
- ・1コマ目の運動の時間は体育館で、2コマ目の座学の時間は当該クラスの教室で行います。
- ・原則1クラスの場合は3-4時限目、2クラスの場合は3-6時限目、3クラスの場合は1-6時限目の調整となります。
- ・1日に実施できるクラス数は最大3クラスまでです。4クラス以上実施する場合は2日間以上の調整となります。
- ・同じ時間に複数クラスを実施することはできません。

■オリンピック：鈴木セルヒオ先生（テコンドー）【出場オリンピック／東京2020大会】

■期 日：2025年2月21日（金）

■クラス：2年A組／運動の時間

○自己紹介～授業の目的確認～準備体操



東京2020大会にテコンドー競技で出場した。また、父が日本人で母がポリビア人だと自己紹介。回転蹴りのデモンストレーションを披露。運動の時間は、元気に体を動かし、オリンピックバリューを学び、考える時間にしてほしい。テコンドー競技は韓国の国技であることから韓国語で挨拶をする。準備体操では特にテコンドー競技に必要な股関節の可動域を広げる運動や、バランスをとる運動を行う。その後、体育館を縦に4往復走った後、班対抗のリレーを実施。マーカーをバトンにして1人1往復走る。

○主運動等



主運動はマーカー取り競争を実施(各班4回、全6回)。中央に置いた8個(1回目は9個)のマーカーを取りに行き、どの班が先に3個揃えられるかを競う。マーカーは1人ずつ取りに行き、中央または相手陣地にあるマーカーを取っても良い。マーカーを投げたり蹴ってはいけない。また、相手チームの妨害をしてはいけない。4つの班毎に対戦し、ローテーションで対戦相手を変える。途中作戦タイムを設け、走る順番や早くマーカーを揃える作戦を話し合う。



運動の時間を振り返り、皆が班の仲間と作戦を考え意見を交わす様子はエクセレンス、マーカーを取りに行く人以外が指示を出し応援することはフレンドシップ、相手の邪魔をしないルールを守り負けても相手に拍手を送ることはリスペクトだ。オリンピックバリューはスポーツだけではなく、生きていく上でもとても大切なことだ。座学の時間は、自分がオリンピックに出場するまでの経験を話し、皆が今後オリンピックバリューをどう活かせるかを一緒に考えたいと話し、授業終了。

■ **オリンピック**：鈴木セルヒオ先生（テコンドー）【出場オリンピック／東京2020大会】

■ **期 日**：2025年2月21日（金）

■ **ク ラ ス**：2年A組／座学の時間

○自己紹介～授業の目的確認～オリンピックの価値を伝える



スライドを使用して自己紹介。テコンドー競技は足の蹴り技を中心に得点を競う。組手(キョルギ)と型(ブムセ)の2種目があり、シドニー2000大会から正式種目となった。中学校までポリアビアで生活し、テコンドー競技を学ぶために韓国の高校に進学したが、思うような成績が残せず挫折を経験した。競技を辞めることも考えたが、日本の大学に進学し監督や仲間と出会ったことで前向きになることができ、2018年のアジア競技大会では3位入賞を果たすことができた。諦めずに続けることで、人は変わる。

○個人ワーク～グループワーク等



発問：オリンピックバリューに当てはまるエピソードを考え、仲間と共有しよう。

発表：エクセレンス：「難しいトランポリンに挑戦した」「勉強して良い点を取った」「合唱コンクール金賞」「失敗からの成長」等
 フレンドシップ：「嘘をつかない」「お互いにアドバイスをおくる」「勉強を教え合う」「前向きな言葉掛けをする」等
 リスペクト：「ライバルにも礼儀を忘れない」「教えてくれた人に感謝」「清掃ボランティアに感謝」「称賛タイムの活動」等



グループワークで皆が積極的に意見を出し合い発表できたことは素晴らしい。オリンピックバリューに当てはまるエピソードは身近なところにある。皆には沢山の時間がある。今取り組んでいることや遊ぶこと、全てに一生懸命取り組んでほしい。自分の目標はポリアビアに移住しメダリストを育てたい。皆も目標に向かって頑張ってもらいたい。最後にスペイン語で頑張るという意味の「VAMOS」の言葉を皆に送りたい。全員でその言葉を言い、授業終了。

■ **オリンピック**：鈴木セルヒオ先生（テコンドー）【出場オリンピック／東京2020大会】

■ **期 日**：2025年2月21日（金）

■ **ク ラ ス**：2年B組／**運動の時間**

○自己紹介～授業の目的確認～準備体操



東京2020大会にテコンドー競技で出場したと自己紹介。回転蹴りのデモンストレーションを披露。運動の時間は、オリンピックバリューを皆と共有する時間にしたい。テコンドー競技は韓国の国技のため韓国語の挨拶を紹介し、皆で練習する。準備体操では特にテコンドー競技に必要な股関節の可動域を広げる運動や、バランスをとる運動を行う。その後、体育館を縦に4往復走った後、班対抗リレーを実施。マーカーをバトンにして1人1往復走る。

○主運動等



主運動はマーカー取り競争を実施(各班4回、全6回)。中央に置いた8個のマーカーを取りに行き、どの班が先に3個揃えられるかを競う。マーカーは1人ずつ取りに行き、中央または相手陣地にあるマーカーを取っても良い。マーカーを投げたり蹴ってはいけない。また、相手チームの妨害をしてはいけない。4つの班毎に対戦し、ローテーションで対戦相手を変える。どんな作戦を考えたかを尋ねると、強いチームから取る、役割分担を決めた、周りの人がアドバイスした等と答える。



運動の時間を振り返り、準備体操のリレーやマーカー取り競争では、良い結果を出すために各班で話し合い工夫したこと、仲間と協力したこと、対戦相手にも拍手をしたこと等、全てがオリンピックバリューにつながる。座学の時間は、自分の競技人生について話し、皆にとってオリンピックバリューに当てはまるエピソードを仲間と共有し、それを今後の生活にどのように活かせるかを考える時間にしたいと話し、授業終了。

■ **オリンピック**：鈴木セルヒオ先生（テコンドー）【出場オリンピック／東京2020大会】

■ **期 日**：2025年2月21日（金）

■ **ク ラ ス**：2年B組／座学の時間

○自己紹介～授業の目的確認～オリンピックの価値を伝える



スライドを使用して自己紹介。母国ボリビアから日本に渡り、日本の大学に入ったことで素晴らしい指導者に出会えた。アジア競技大会で獲得したメダルを披露。東京大会では自分の思うような試合ができず敗退してしまう。悔しさからなかなか立ち直れず少しの間競技から離れた。ボリビアに帰り、テコンドー道場の子ども達や多くの人達から励ましの言葉を貰い、応援してくれる人の存在を実感し気持ちの整理が付き、再び競技に取り組む決意ができた。

○個人ワーク～グループワーク等



発問：オリンピックバリューに当てはまるエピソードを考え、仲間と共有しよう。

発表：エクセレンス：「逆転勝利」「失敗からの大成功」「跳び箱が跳べるようになった」「学校行事等での作戦会議」等

フレンドシップ：「チームワーク」「運動会で協力できた」「友達が資料集を貸してくれた」「チームの仲間にアドバイス」等

リスペクト：「遠足のお弁当を作ってくれる母親に感謝」「クラスの皆を尊敬する」「先生が困っている時に助けた」等



グループワークでの発表はオリンピックバリューに結び付くエピソードが沢山あり、仲間と共有できたことは素晴らしい。皆には沢山の時間があるので、苦しいことや辛いこともあると思うが沢山のことを経験してほしい。そして後悔しないように何事も一生懸命がむしゃらに取り組んでほしい。まだやりたいことが見つからないでも勉強や遊び、友達との時間を大事にしてほしい。最後にスペイン語で頑張るという意味の「VAMOS」の言葉を皆に送りたい。全員でその言葉を言い、授業終了。

■集合写真

・2年A組



・2年B組



■記念品贈呈

・2年A組



・2年B組



■修了証贈呈

